

平成 26 年度 研究成果報告書

Research Achievement Report FY2014

講座名・職名 Course Title・Job Title	ヨーロッパ・アメリカ講座Ⅱ 准教授
氏名 Name	松本健二
専門分野 Academic Field	ラテンアメリカ文学

主たる研究テーマ Principal Research Subject	チリにおける反詩の系譜：ニカノール・パラとエンリケ・リンの文学に関する総合的研究
<p>上記の平成 26~28 年度科学研究費基盤 C (番号 26370386) の 1 年目を研究計画に従って進めた。まず一次資料の特定から始めたが、パラについては FCE 刊行の詩全集が存在する等、ある程度研究者コミュニティでの共有文献リストがあることが判明したものの、リンについてはそうした基盤となる一次資料がまだ特定されていない状況にあることが分かった。理由としてはリンが生前からマイナー出版社でごく少ない冊数の詩集しか刊行してこなかったこと、また詩以外での活動が多岐に渡るため詩人として文学研究の対象とされる機会が少なかったこと等が挙げられる。先行研究にも生前のリンと付き合いのあった人々へのインタビュー調査等、どちらかと言えば文献を離れたフィールドワークに類するものが多いことが分かった。それでも近年はたとえばディエゴ・ポルタレス大学出版局がパラ、リン、そして同世代のラウル・スリータ、フアン・ルイス・マルティネスといったチリ現代詩の作家たちを準古典的な位置づけで再発掘する試みに着手する等、系統的な文献化の作業が進んでいることも分かってきた。以上の調査を進めながら今年度は主としてパラの第一詩集『詩と反詩』におけるいわゆる「反詩」の定義について各種先行資料を参照しつつ考察した。その結果「反詩」がチリにおけるひとつの詩の模範となりつつあったパブロ・ネルーダやガブリエラ・ミストラルといった大詩人の作風への対抗心に立脚していること、テーマにおいては日常性と意図的な凡庸性が重視されていること、詩作行為を視覚芸術の分野にまで広げる意志に深く関係していることなどが判明してきた。また平成 27 年 3 月 16 日から 23 日までチリ国サンティアゴ市に出張し、各種資料の補充をおこなうと同時に視覚芸術美術館で開催中だったペドロ・モンテス個人収蔵展を訪問、生前のリンらと交流のあった蒐集家のコレクションでリンの自画像等を見学する機会を得るとともにチリ現代美術と前衛文学との関係について論じた資料も収集した。最後に本年度の成果の一端を「(翻訳) ニカノール・パラ『詩と反詩』Ⅰ」(Estudios Hispánicos.39, pp.51-63) として公開した。</p> <p>また、平成 23~25 年度科学研究費基盤 C (番号 23520428) 「ヨーロッパを再発見するメスティソ：セサル・バジェホの中後期言説の総合的研究」の成果を平成 26 年 10 月 20 日から 25 日にかけてペルー国リマ市とトルヒージョ市で開かれた国際会議 Vallejo Siempre で “Trilce como paradigma del mestizaje poético” として報告した。</p> <p>この他、翻訳としてサマンタ・シュウェブリン『口のなかの小鳥たち』(東宣出版)、ロベルト・ボラーニョ『(改訳) 通話』(白水社)、また雑誌論評として「巨木と下生えーマルケス、ボラーニョ、あるいは無数の作家たち」(『ユリイカ』平成 26 年 7 月号、pp.155-161) を発表した。</p>	